平成２８年度　第２回授業づくり研修講座　実戦レポート

相模が丘小学校　菅原　智

①運動会の作文の実践

・運動会練習開始時から、その時の気持ちを書き溜めておく

　例えば、ダンスの練習をした時の感想や、１年生と取り組む団体競技の練習の感想をその都度書かせた。ダンスの感想では「難しいけど楽しかった」から「全部覚えたから嬉しい」「完璧に踊りたい」と心境が変化していった。

　その積み重ねがあり、本番の作文を書くときには過去を振り返りながら、一番思い出に残っていることを集中して書くことができていた。

　ただ、過去を振り返りながら書くことが難しい児童もいた。しかし、そのような児童にとっても書くことに自信がついてきていた。

②授業の振り返りの実践

・単元終了時に、なにを学んだかを書く

　授業で作文の時間を増やすことは難しいので、単元の振り返りとして１学期から書かせていた。当初は何を書けばいいのか戸惑いを持っていた児童がいて白紙に近いものを提出することもあった。しかし、単元終了時に書くことが習慣化されるに連れ、戸惑いは薄れ自分の思っていることをかけるようになってきた。

③作文の読み合い

・１回目には必ず間違いがある、という指導

　「有名な作家さんもいろいろな人に見てもらって直している」という話をして必ず自分で読み直しをさせた。そして、書き終わった人同士で作文チェックをし合った。その結果、作文を他の人に見せることに抵抗がなくなってきた。また、書き終わると「友だちと見せあっていいですか」という児童が増えてきた。そして、「ここ間違っているよ」という声も増えてきた。

　しかし、まだ、しっかり推敲できるわけではないので、作文を書くときの心構えとして、これからも繰り返しの指導が大切だと感じた。